

ぶな

2022年6月号

NO. 519



滋賀県勤労者山岳連盟 比良雪稜会

(巻頭言)

三 宝

H島

4月2日仰木里山（桜公園）例会で大変感心したことを紹介します。

R寺門前で集合写真を撮っていた時、総勢27名の整列や三脚の準備に大変時間がかかっていました。そこに、坊守さん（浄土真宗では住職の配偶者を坊守と呼びます）が車で帰ってこられ山門横の駐車場に停車されました。

我々が門前一杯に広がっていたため通れません。また、ワイワイガヤガヤ騒いでおり注意を受けるかなと思っていました。

しかし、坊守さんは買ってこられた花束をじっと抱え、撮影終了まで車の中で待機して下さいました。相当の長い間です。しびれを切らし嫌味たらしく横切るのが普通ではないでしょうか。

写真撮影が終わり、坊守さんが寺に入る際に一言、「シダレザクラの枝を短くしたので以前ほどの立派さはなくなりましたがゆっくりしてください。寺の拝観もどうぞ。」

自坊に来てもらった人への感謝、いつくしみがあふれる言葉でした。

「慈」と「儉」「先たらず」の三宝を保持された坊守さんでした。

「我つねに三宝あり、持してこれを宝とす。一にいわく、慈。二にいわく、儉。三にいわく、敢えて天下の先たらず。」私の座右の銘とする格言です

「慈」人をいつくしむこと。

「儉」物事を控えめにすること。

「先たらず」慎重に身を持すこと。

慈・儉・先たらず、この三つの宝を大切に日々過ごすことで、残りの余生、無事に送りたいものです。

<目 次>

| | |
|--------------------------------|-----|
| 「巻頭言」 | 1 |
| 「目 次」 | 2 |
| 【例会山行案内】 | |
| ・ 鈴鹿 四方草山 (6月19日) | 3 |
| 【例会山行報告】 | |
| ・ 京都トレイル5 (4月24日) | 4 |
| ・ 猪の鼻ガ岳・砥山 (5月3日) | 7 |
| ・ 那須ヶ原山 (5月15日) | 9 |
| ・ 愛宕山 (5月19日) | 11 |
| 【個人山行報告】 | |
| ・ 蝶ヶ岳・潤沢カール (5月3日～5日) | 13 |
| ・ 大峰奥駆道 (5月3日～5日) | 15 |
| 【初級登山教室報告】 | |
| ・ 比良滝山・寒風峠周回読図山行 (4月16日) | 173 |
| ・ 金毘羅山クライミング体験 (4月23日) | 19 |
| 【寄稿文】 | |
| ・ スイスアルプストレッキング3 | 23 |
| 【定例会報告】 | |
| ・ 第3回運営委員会(5月10日) | 25 |
| 6月予定表 | 27 |

＝ 表紙の写真 ＝

高畑山

2022.5 撮影：K嶋氏

(例会山行案内)

鈴鹿 県境稜線を往く③

鈴鹿峠～三子山～四方草山～安楽越

三子山南峰、中峰、北峰を越え四方草山の鋭鋒へ。笹ヤブに囲まれた静かな頂上を過ぎると安楽越までひと頑張り。キレット・急な岩のやせ尾根がある難路が続きます。安楽越からは東海自然歩道を鈴鹿峠まで戻ります。

鈴鹿県境稜線をつなぎましょう。

日程 6月19日(日)

集合：堅田駅 7:00

コース：堅田駅 7:00＝鈴鹿峠 8:30～三子山～四方草山 11:00～霧ヶ岳～安楽越 14:00
～山女原～鈴鹿峠 16:30＝堅田駅 18:00 (解散)

難易度：体力★★★★☆☆ 技術★★★★☆☆

装備：弁当・飲み物・雨具・行動食・非常食・防寒着・手袋・地図・
その他日帰り登山装備

申込先 H島

(車台数の状況により参加者数制限される場合があります)

締切日 6月13日(月)

中止：前日 9 時の予報で降雨・強風の場合は中止にします。この場合、正午(12:00)までに連絡します。

<例会報告>

京都トレイル(5)

実施日 2022年4月24日 雨のち曇り

参加者 K原 CL・H島 SL・K藤 CL・N野・H浦・K林・T中・I井・N田・S田・S井・Y口
K嶋・S水・N井・F野・S井

行程 京都駅 JR バス停=樺ノ尾(88)～<北山西部コース>～金鈴橋(94)～清滝(1)
～<西山コース>～落合(5)～六丁峠～鳥居本～トロッコ嵐山(14)～小倉山展望
台(昼食)～渡月橋～松尾山登山口(26)～山頂～苔寺谷(51)～阪急上桂駅
注)カッコ内数字はトレイル標識番号

前日午前の曇り予報が外れ京都駅集合時には雨、それでも欠席者はなく7時50分発のバスに乗り込む。前回(4)の終着地で今回の出発地となった樺ノ尾には8時50分に着く。早速に雨具を着込み、弱いながら本降りの中スタート。まずは高山寺前を通過し清滝川まで下り溪谷に沿って雨で輝く新緑と銀雲溪谷の景観を楽しみながら歩き金鈴橋に着く。

西山コースはここからでさらに金鈴峡谷に沿い滑りやすい岩場を慎重に歩きながら溪谷美を堪能して落合に着く。落合では一息入れ、ここからは溪谷を離れ六丁峠まで保津峡の景観を眼下に車道を登り、嵯峨鳥居本へと下る。撮影後、嵯峨ならではの町並みの風情を感じながらマスクを忘れて歩きトロッコ嵯峨に11時40分に着く。昼食地はコース外の大倉山中腹の展望台となるが、その登り15分が空き腹には意外にきつく濡れた体にさらに汗を加えた。展望台では雨も一時的に止んでいて嵯峨野が一望できる丸太ベンチでラーメンを作る。誰かが「雨水ラーメンにならなくてよかった」と話す声があった。13時に昼食休憩を終え嵐山公園(亀山地区)まで下り名勝嵐山の象徴である渡月橋を渡り登山口に着く。そしてこのコースの最高点となる松尾山(275)山頂には14時20分着く。ここは京都市内一望でき大文字山など東山が正面に見える西山らしい展望がある。記念写真に納まり最後の頑張り濡れた体に鞭を打つ、下山はここら西へ稜線をアップダウンし215ピークを越えて苔寺谷に下る。西山コースの最終標識51は薄暗い竹林の階段を下ったところにあった。15時20分苔寺谷に到着、歓声上がる。ここでも記念撮影する。そして西山コースの最終地点はここから1.5km先の阪急上桂駅であるため文化遺産の苔寺前を通り上桂駅には15時40分にゴールした。(17km歩く)

これをもって「京都一周トレイル」を5回に分けて完歩する例会は無事終了しました。そしてこれまでに参加していただいた方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

なお解散後、有志で乾杯したことを付記しておきます。 記)K原

(一口感想)

残念ながら雨の山行になってしまいましたが、17キロほどの道のりをひどく降られることもなく楽しく歩くことができました。新緑が美しく、特に雨に濡れた青モミジが最高でした。雨の日の歩き方もたっぷり経験できて、石や木の根、落ち葉など濡れるとより滑りやすくなるので、下りは特に気をつけなければいけないなあと改めて感じました。私は3回目からの参加だったので、いつか最初の2回のコースも歩いて京都一周トレイルを完歩できるといいなと思います。 S水

前日の午後の天気予報では曇りだったのに、夜には昼前から雨に変わってしまいました。まさか、京都駅から雨が降り出すとは！バスの中でザックカバーをつけたりカッパの上着を出したりしましたが、雨が強く梅尾のバス停でフル装備にして出発。六丁峠は下りには使ったことがあるけれど上りは初めて、息を切らしつつも小雨ぶる景色を堪能。トロッコ嵐山駅から昼食のため小倉山山頂まで、後少しと言われたけれどこれが今回1番辛い登りでした。雨は止みませんでした。整備された道、もみじのトンネルやきれいな竹林に癒やされた1日でした。しかし、雨具の手入れが悪く撥水も防水も全く駄目でした。只々反省です。これを夏山に向けての教訓とします。 H浦

京都トレイル 80km 完歩出来ました。160km を歩かれた リーダーさんに感謝、有り難うございました m(_)_m

青・青・青モミジの 梅尾～出発 清滝川に沿って、緩やかに、楽しく歩を進める。モチツツジ、フジ、マルバウツギ(?)が咲いていました！澄んだ川の上を飛翔する、サワガラスやマガモなどの鳥も 教えて頂き 苔寺谷(終点標識 51)で 仲間とタッチ!! 達成感と 一抹の寂しさを噛み締め宴会で盛り上がりました。 N田N子 o(^-^)o

トレイルシリーズ楽しかったです、昨日は雨でしたが、体調はすこぶる快調です(といいたいですが、足が痛いです。

ずいぶん前に購入したものの、自力で活用できないまま引き出しに鎮座していた京都トレイル地図を引っ張り出して歩いてたどることで、私にはただの線に過ぎなかったトレイル道が、映像として浮かぶようになりました。この道がこの道と・・という体験はそのたびごとにワクワクしました。ありがとうございました。 K林T子



〈例会山行報告〉

ちょこっと山行 猪の鼻ガ岳・砥山

日 時 2022年5月3日(火) 天候晴れ

参加者 CLK藤(車)・SLH島(車)・Y口弥(救急)・H池・F野(写真)
・F川(会計)・N村(記録)

計7名

- 8:00 和邇川河川敷駐車場集合。その後和邇駅で電車組と合流。
- 9:40 森の家駐車場到着。スタッフの方よりしゃくなげ溪 MAP をいただき、見頃は過ぎているので、料金は頂いていないと言われる。
- 9:50 駐車場出発。少しアップダウンのある遊歩道を歩きながら、しゃくなげの花を探す。残念ながらやはり見頃は過ぎていて、きれい咲いている花はあまりなかった。
- 10:15 しゃくなげ池到着。池のまわり木々の新緑がとてもきれいで集合写真を撮る。
- 10:21 ほんしゃくなげ群落入口到着。A コースの遊歩道を歩きながら再びしゃくなげの花を探すもやはり見頃は過ぎ、日陰のあたり少し花が残る程度であった。代わりに藤の花とつつじがきれいに咲いていた。
- 10:30 しゃくなげ群落終点に到着。ここから稜線につながる道がなくなっており、7名でルート相談。P520 へつながる尾根にとりつく。10:33～①苔むした階段を上がり、尾根直登目指すも岩に阻まれ断念する。10:43～②YAMAP の以前登られた方の軌跡を頼りに進むも倒木が多く断念する。
- 11:07 しゃくなげ群落終点に戻りルートファイティングの反省と休憩。鎌掛峠まで車で行き砥山までピストンすることにする。
- 11:32 森の家駐車場に到着トイレ休憩などし、車で移動。
- 11:42 鎌掛峠駐車場到着。宝殿林道より猪ノ鼻ガ岳(宝殿山)目指す。林道入口より見える猪の鼻ガ岳と池の景色がとてもきれい。
- 12:04 標高 409 林道にて衣服調整。
- 12:15 標高 450 林道より綿向山がきれいに見える。
- 12:19 猪ノ鼻ガ岳取付き到着。CLK藤さんの下見がなければ見落としそうな場所であった。

- 12:30 猪の鼻ガ岳山頂到着。山頂からの見晴らしはあまりよくない。集合写真撮影。13:00 まで各自好きな場所で昼食をとる。
- 13:13 P520 到着。ピークよりしゃくなげ群落終点より諦めたルートを眺める。
- 13:34 標高 545 衣服調整。砥山への急登が始まる。急登すぎて登りは何とか登れるが下山は滑るのではないかと心配になる。
- 13:49 砥山到着。集合写真撮影。14:00 まで休憩。ピストンで、鎌掛峠まで下山予定であったが、林道を歩き下山することにする。
- 14:55 宝殿林道入口まで戻ってくる。往きに見た池の側で 15:30 までコーヒータイム。K藤さんとH島さんがコンロとやかんを持参してくださり、美しい姿の猪の鼻ガ岳を見ながらのコーヒーを飲む。F野さんに写真を撮ってもらう。
- 15:32 鎌掛峠駐車場到着。山行終了。
(おまけ) H池さんの案内で本日日野祭りがあつた馬見岡綿向神社を見学し、その後解散。

スタッフの方に尋ねたところ、今年のしゃくなげのピークは4/25～27頃。ちょうどその頃に雨が降ったため、見頃は短かったそうだ。また、今年は裏年で、元々つぼみも少なかったらしい。4/30頃には花は終わってしまったそうだ。温暖化で桜の開花が早くなっているのと同様にしゃくなげの開花も早くなっているそうだ。

記録 N村



頂上集合写真と下山後猪ノ鼻ガ岳を背後にお茶タイム

<例会報告>

鈴鹿縦走② 那須ヶ原山～鈴鹿峠

日時 令和4年5月15日(日)

参加 一班 CLH島、SLK藤、O村智(会計)、O村益、H部史、H部美、K原、
F川(記)

二班 CLN尾 SLN野、K林、N田、H浦(救急)、I井、S水、K嶋

計 16名

行程 7:00 道の駅米プラザ=8:15 あいの土山=9:30 登山口～10:30 那須ヶ原山山
頂～11:50 唐木岳(昼食)12:30～12:55 坂下峠～13:50 高畑山西・主・東峰
14:10～15:30 鈴鹿峠 16:50～17:00 あいの土山 解散



天気曇り、気温13度、山登りには新緑が燃える絶好の季節である。道の駅米プラザ7時に集合、車3台に分乗し出発。朝早いのでスムーズに8:15あいの土山に到着。ここで直行組と合流した。車1台を下山する鈴鹿峠に配車に行ったが、峠の駐車場には入る入口が分からず小1時間が掛った。あいの土山からは10分ほどで那須ヶ原山登山口に到着、2班に分かれて出発した。

30分ほどで衣服調整のため小休止、尾根道に出て5分ほど10:30に那須ヶ原山に到着した。しばし三重県側眺め早速出発。尾根道は上り下りが大きく大変である、先日歩いた油日方面ほど痩せ尾根はないが、岩道や石灰岩の崩れた砂利道の急斜面が多く、結

構注意して進む必要があった。11:50 唐木岳に到着、風はほとんどなく、薄日の中ゆっくり昼食を採った。

食後急激な砂利道を下ると、始めて歩きやすい尾根道が続き、少し遅いが、つつじ、シャクナゲ、シロヤシオ、ヤマボウシ、イワカガミなどを見つけ疲れを忘れさせてくれた。坂下峠を抜け、13:50 ごろ高畑山に到り、西峰・主峰・東峰を 20 分ほどで通過、最後の景色を楽しむ。その後小ピークが2か所あるが 1.5 時間ほどで鈴鹿峠に下山した。

ここで 1 時間以上車を待たせたが、おやつをいただいたり、コーヒーにしたり、今日を振り返り楽しい時間を過ごせた。



一口感想

「鈴鹿山脈のこの辺は造山されたのが古いのか、縦走路の起伏が大きく、風化した石灰岩やじゃりの急坂が多く、注意が欠かせず、神経や結構体力を消耗した」

F川

730m～800m の鈴鹿の山々の縦走 up・down の繰り返し、シロヤシオ・シャクナゲ・チゴユリの花々を 楽しみ ‘ちむどんどん’させていただきました。 N田

《例会報告》

愛宕山（924m）

日時 2022年5月19日(木) 8時15分から16時40分 晴れ

参加者 CL T中啓 SL H池 Y口弥 K藤 S井 N野（記録）H島 S水 A本
S井 以上10名

行程 JR保津峡駅(8:15) 集合～ツツジ尾根登山口(8:35)～荒神峠(9:35)～水尾
分れ(10:40)～(11:30)愛宕神社手前(12:30)～神明峠(13:35)～土用の冷
泉(14:20)～峯の堂(15:00)～ 明智越え登山口(16:00)～JR亀岡駅
(16:40) 解散

天候は朝から快晴で、JR嵯峨野線の保津峡駅に8:15に集合して出発しました。今回の参加者は女性7名、男性3名の総勢10名で圧倒的に元気な女性陣が優位です。しばらく歩くと直ぐにツツジ尾根の急登で20分間歩いて衣服調整で休憩した。荒神峠から更に急登が続き、水尾分れに10:40に到着した。新緑の中を50分ほど歩いて愛宕神社手前の広場で集合写真を撮影後、30分間の昼食タイムです。昼食時にびっくりする出来事がありました。何とトビが我々の食べ物を狙って急降下して来て、危うく食べ物を取られるところでした。今回は愛宕神社に参拝しない為、昼食を早々に切り上げて神社参拝と古いお札の返還とお札の購入を済ませて戻りました。



愛宕神社手前にて

愛宕神社手前を出発して神明峠に 13:35 に到着、更にしばらく歩いてから山道横で
コーヒータイムを取りました。

土用の冷泉から峯の堂を過ぎてからいよいよ明智光秀が本能寺の変の際に通ったとさ
れる明智越えです。杉林が続く道を通って下山後一般道を歩いて亀岡駅に 16:40 に
到着して解散した。お疲れ様でした。 (N野)



ほっと一息、コーヒータイム

《個人山行報告》 残雪期北アルプス/蝶ヶ岳・涸沢カール

日 時：2022年5月3日～5日(晴れ)

参加者：CLH野、SLK嶋(写真)、S水(記録・食担)

行 程：

5/3(火)各自宅 01:00～名神高速・東海北陸道・中部縦貫道高山 IC～高山タクシー駐車場
04:40～上高地ハスターミナル 05:20-05:35～明神 06:35-06:45～徳沢
07:50-08:00～横尾キャンプ場 09:00(幕営)

5/4(水)横尾キャンプ場 06:00～槍見台 07:30～第二ベンチ 07:30～P2625 10:10～蝶ヶ岳 10:30
～蝶ヶ岳ヒュッテ 11:40-11:55～蝶ヶ岳 12:00-12:10～妖精ノ池 12:35～長堀山
13:00-13:10～徳沢園 15:55-16:05～横尾キャンプ場 17:00(幕営)

5/5(木)横尾キャンプ場 06:00～本谷橋 07:05-07:25～涸沢ヒュッテ 09:30-10:25～本谷橋
11:35-11:40～横尾キャンプ場 12:40-13:25～徳沢園 14:20-14:30～明神 15:20-
15:25～上高地ハスターミナル 16:15-16:30～平湯温泉入浴後帰滋

■初日、6時に予約していたタクシーに1時間以上早く乗る事が出来た為、上高地出発もその分早くなった。横尾まではほぼ平地なのだが、重い荷物にも今回も苦戦。徳澤から横尾に向かう頃には重みで体が右に曲がってしまいへろへろだったが横尾には9時に到着。テントを張り、横尾山荘で昼食を食べたりして、のんびり夕方まで過ごした。陽が落ちると急に寒くなってきた。今日のメニューは焼きそばと高野豆腐の煮物。そそくさと夕食を済ませて明日に備える事となった。

■二日目、4時起床で6時出発！今日は横尾から蝶ヶ岳へ…いきなりの急登で始まり、途中からアイゼン装着。黙々と歩く中、前方から降りてきていた女性がいきなり滑り落ちてきた。幸い数メートルで止まることができ後ろにいた登山者に助けられていたが、雪の斜面を滑るのを目の当たりにして、気を引き締めなければと思った。稜線手前で雪はなくなりアイゼンを外す。稜線に出ると快晴の天気で穂高連峰から槍ヶ岳、乗鞍岳、御嶽山と360度絶景が見渡せて感動の景色…。“めっちゃかっこいい～” ともウルウルタイム突入。10m以上の風が吹く中、蝶ヶ岳へ。常念岳のどっしりした雄姿も見て、蝶ヶ岳ヒュッテに向かった。コーヒータムを取ったあと後ろ髪をひかれながら長堀尾根を降りて徳澤へ。凍った“妖精の池”のそばを通り徳澤着。徳澤園のソフトクリームで乾杯！！今日はカレーをしっかりと食べて爆睡。

■最終日、昨日と同じく4時起床で6時出発！今日はおでん食べに涸沢ヒュッテへ…！本谷橋までは所々に雪は残っているもののノーアイゼンで行けた。本谷橋でアイゼンを装着し、登り始めたらいきなりの急登。今年は雪が少ないためか谷筋の冬道ではな

く夏道にルートが切っており、すれ違いもできない細い登山道なので、待ったり待つてもらったりして、予想以上に時間がかかった。冬道なので楽に登れると思っていたのに涸沢までが遠かった。涸沢ヒュッテでおでんを食べて絶景を楽しむ。北穂高岳や奥穂高岳に登っている人影が点々と小さく見えた。かっこいい景色を背に下山開始。下山途中で赤と黄のジャケットの長野県警山岳遭難救助隊の姿が。訓練でもしているのかと思ったら、滑落者の救助中で2〜30メートル下に救助者の姿が見えた。「もうすぐヘリが来るので今のうちに進んでください」との事。下山途中でアイゼンをひっかけて滑落し負傷されたことが後日わかった。遭難の現場を目のあたりにし、気を引き締めて下山。無事、横尾に到着し、テントを撤収して上高地に向かう。上高地までがまたまた、とってもキツかった。二泊三日の中身の濃い3日間、好天気恵まれて最高の山行となった。H野さん、K嶋さん、ありがとうございました。

【一口感想】

GWの北アルプス、この時期の北アルプスの山々はまだまだ、冬と春を行ったり来たりで、天候の見極めが非常に大事！雪の状態もカリカリに凍っていたり、融けて緩んでいたりでかなり不安定な状態でしたが、今回のお天気は三日間とも最高でした。そのお蔭で絶景を堪能出来、大満足の山行でした。ありがとうございました。(K嶋)

久しぶりの北アルプスでした。天気に恵まれ、残雪期の絶景を堪能した三日間でした。(H野)



<個人山行報告>

大峰奥駈道（玉置山～熊野本宮大社）

日時 2022年5月3日（火）晴れ～5日（木）

参加者：N尾・N野・KN

（行程・記録）

- 3日朝7時に出発して玉置神社駐車場14時着。昨日に通行止め解除で助かる玉置神社駐車場（14:00）～玉置山（14:20）～玉置神社（14:40）～玉置神社駐車場（15:15）テント泊 テントは駐車場内だけでも20数張もあった
- 4日朝3時半に起床 5時ごろから明るくなる。
玉置神社駐車場（5:15）～玉置辻（6:05）～大森山（7:35）～五大尊岳（9:15）～金剛多和（昼食10:45～11:20）～大黒天神岳（11:40）～山在峠（12:35）～吹越山（13:10）～七越峰（14:25）～備崎（15:45）熊野川渡渉
～熊野本宮大社（16:25）～バスで川湯温泉へ 民宿に泊まる
- 5日
バスとタクシーで玉置神社駐車場へ。帰路に谷瀬の吊橋を往復見学。夕方帰宅

• 3日昼、玉置神社駐車場に着く。20分ほどで玉置山山頂。シャクナゲの花が真っ盛り。ここから下って玉置神社へ、杉古木、神代杉や夫婦杉の巨大さに圧倒される。さすがにゴールデンウィーク、大勢の方が参拝されていた。駐車場にテントを張る予定も満車状態で長く待機。何十年ぶりかのテント泊。なかなか寝付かれなかったが、防寒着を多く着込み何とか寒さは防げた。コッヘルやガスボンベを使っただけの夕食は若い頃に返ったようで楽しかった。

• 4日5時さあ出発、玉置神社に無事を願い、奥駈道を玉置辻へ下る。下りきったところから徐々に高度を上げ、今回奥駈道の最高峰大森山1078mに着く。ここから不動明王が存する五大尊岳へ。この間の登り下りはめっちゃくちゃきつい。へばりそうになった。少し明るくなった雑木林を下ると金剛多和ノ宿跡。ちょっと早いけどゆっくり昼食。少し疲れが取れたよう。後、植林の中を進むと大黒天神岳、ほどなく山在峠に着く。林道を越え、山道に戻ると吹越山。ここから七越峰までの尾根道でゆったりと流れる大河熊野川が望める。いよいよ奥駈道も最後の行程だ。七越峰を下り、備崎を目指す。熊野川の河原でサンダルに履き替え、渡渉する。透明度が高く、底が見える。結構深く、流れも速い。何とか渡れた。河原を横切り熊野本宮大社に着く。総行程11時間、41000歩。

KN・N尾

〈一口感想〉

前回4年前の大峰奥駈道（前鬼～浦向）から久しぶりに玉置神社～熊野本宮大社までの大峰奥駈道を歩きました。全長 18km 余りを約 11 時間かけて歩き通しました。山の標高は高くないのですが、結構上り下りが多くあり大変疲れました。最後に熊野川を裸足で荷物を担いで膝まで浸かって渡り切ったのが今回の山行の最大の思い出になりました。

N野

今年のゴールデンウィークは好天に恵まれ奥駈修験道を歩く人も多かったです。今回は逆峰の最終区間を歩いてきました。玉置山から約 1000m 下るコースですが、1000m 余り登り 2000m 余り下るアップダウンの多い難路でした。大峰奥駈道全山踏破はまだ道半ばですが完歩したいものです。

N尾

今年喜寿を迎える私にとって、大峰奥駈道を歩くことは夢また夢でした。昔から大峰山脈を縦走する「大峰奥駈道」は役行者が開いた山伏たちの修業の場、修験道であり、日本でも有数の厳しい縦走路と聞いていました。この山道をこの年齢で踏破できたことがとてもうれしく又、ブナやトウヒの自然林、大山蓮華やシャクナゲの群生など大自然を満喫できました。この山に導いてくれた山友に感謝、感謝！です。

KN

玉置山頂にて



<2022 年度初級登山教室報告> 比良滝山・寒風峠周回／一読図山行

日 時 2022 年 4 月 16 日 (土) 晴

講師およびスタッフ：T 内 (彷徨倶楽部)・N 森 (彷徨倶楽部)

K 嶋 (比良雪稜会)、K 口 (滋賀山友会)

受講生：T 本 (滋賀山友会)・N 村 (比良雪稜会)・S 水 (比良雪稜会)

行 程：登山口駐車場(9:00)～楊梅の滝分岐(9:20)～楊梅の滝(9:30)～楊梅の滝分岐(9:37) [5 分休憩]～涼峠(10:15) [10 分休憩]～オトシ出合(10:40)～662 ピーク(11:40) [35 分休憩]～滝山山頂(13:00) [5 分休憩]～寒風峠(13:40)～オトシ出合(14:05)～標高 500 徒渉点(14:10) [5 分休憩]～しし岩対岸(14:55)～しし岩(15:25)～楊梅の滝分岐(15:50)～登山口駐車場(16:00)

講習の内容：楊梅の滝入口から涼峠、オトシ出合からバリエーションルートを通じて、滝山南西の 662 ピーク、滝山までのルートを読図しながら周回山行した。登山口から 200 ほど進んだところで、地図での現在地と距離感を確認した。さらに進んで、楊梅の滝と登山道の分岐を過ぎたところで、尾根との位置関係からルートを外れた事を確認。滝を往復して、登山ルートに戻りしばらく進んだところで、標高と地形を見て現在地を確認した。また、涼峠手前でピークと鞍部の位置から現在地を特定するなど、地形を見ての読図を体験した。

涼峠で休憩・打ち合わせをして、そこから受講生中村がリーダーとなって、オトシ出合への登山道を進み、662 ピークへの取り付き点を探索した。一般登山道ではあるが、どこから 662 ピークに進めば良いかの判断は難しかった。

オトシ出合を過ぎたところで、リーダーを受講生清水に交代して、現在地と方角を確認して 662 ピークへと進む。目的地へ向かって歩き始めるが、しばらく進むと川に阻まれたため登山道へ戻り、オトシ出合付近から再度 662 ピークを進む。道のない急坂を登り藪を歩いて、高度と現在地を確認。小さな尾根や谷でわかりにくい所もあったが、数回現在地と方向を確認しながら、北寄りの尾根に取り着く。ここから踏み跡があり、少し開けた尾根をたどって 662 ピークへ着いた。

662 ピークで昼食休憩後、受講生塚本がリーダーとなって 662 ピークから滝山まで稜線を通って進む。北の方角に下ってから次のピークを登り返しまた下って次のピークへ進む。ここで現在地と方向の確認。さらに北に進んで標高 650 を過ぎた小ピークで再び現在地と方向の確認。幅の広い稜線に踏み跡がありしばらくそこを進む

が、稜線の一番上をつないで滝山に向かうルートに移行。比較的見通しがよく地形の特徴も把握しやすいルートでスムーズに滝山に到着した。

滝山からは再び地図とコンパスで方向を確認し寒風峠に進み、オトシを経て涼峠の手前の渡渉点から楊梅の滝方向へ滝川沿いのバリエーションルートで向かう。途中数回渡渉しながらしし岩に登る。本教室で登攀予定のしし岩の説明を聞き、急坂を下って登山口駐車場まで下山した。朝からは強い北風と小雨が吹き付けるやや寒い天気だったが、昼から晴れてきてツツジやおオカメの木などの花を見ながら、楽しい春の読図体験山行となった。(T本：記)

地図読み苦手で、自分には出来ないと思って個人の登山では、全く取り組んできませんでした。

地図の見方、コンパスの使い方もきちんと理解しないまま、リーダーとして先頭を歩くのは大変緊張しました。ご迷惑おかけしたと思います。

今まで周りの地形意識して、歩くことはありませんでしたが、これからは、地図と周りの景色を見比べながら、歩こうと思います。(N村)

コンパスの使い方もおぼつかない中、コンパスと地図を使つての読図体験。662ピークまで先頭に立って歩いたが、余裕なくコンパスの示す方向を突き進んでしまうこととなり、もう少し周りを見られていれば、木々の間を突進することもなかったと反省する。今、自分がどの位置にいるか、現在地がわかっていなければいけないが、今回のようにルートのないところではとても難しかった。地図を見て地形や高度を把握し、周りの景色なども見ながら進む方向が判断していけるように、まずは地図に慣れるところから始めたいと思う。(S水)



<2022年度初級登山教室報告>京都北山・金毘羅山/クライミング体験

日 時 2022年4月23日(土) 曇り時々晴

講師及びスタッフ：T内(彷徨倶楽部) N森(彷徨倶楽部) M田(湖南岳友会) K口
(滋賀山友会) K嶋(比良雪稜会) G阿弥(比良雪稜会)

受講生：T本(滋賀山友会) S口(滋賀山友会) N村(比良雪稜会) S水(比良雪稜会)

行 程：寂光院駐車場(9:00)～江文神社登山口(9:30)～北尾根の取付(9:50)～クライ
ミング開始(10:10)～北尾根(13:30)・昼食(14:00)～Y懸の頭(14:40)・
懸垂下降体験～下山開始(15:30)～江文神社(16:00)～寂光院駐車場(16:55)今日
の振り返り・反省(17:20)

講習の内容：9:35登山口でクライミングの装備を装着。ハーネスを付け、左右にカラ
ビナを取り付ける。ノーマルカラビナ2個と60センチスリングを使ってクイックド
ローを3セット作り、同様に装着。ヘルメットを被る。クライミング中に落ちると事故
につながるので、ザックのサイドポケットにはペットボトルなど入れず、ザックの外
回りにもものを付けないように注意を受ける。身支度を整え北尾根の取付まで移動。

北尾根の取付に着きクライミングシューズに履き替え、ロープを出して準備。受講
生と指導者で3つのグループに分かれて登る。

(①T内・M田・S口・N村 ②K口・K嶋・S水 ③N森・G阿弥・T本)

登る前の注意として、登っていないときはスリングを使ってセルフビレイを行い安
全確保すること。荷物が下に落ちないようにすること。落石することがあるので岩の
下で休憩しない。岩に抱きつかず、体を少し離して三点支持で登ること。登るときは素
手で岩を直接接触。ハーケンには指を入れないようにすること等指導を受けた。グル
ープ①からクライミングを開始。待っている間に他の先行パーティからの落石を受け、
信森氏のヘルメットに当たるというアクシデントがあり、ひとつ間違えると大きな事
故につながることを目の当たりにし自身も上部からの落石に気を付けなければと思っ
た。その後はグループごとに行動。

グループ②ではK口氏がリードで登り、K嶋氏がビレイ。続いてS水がセカンドで
登り始める。どこを掴んだらいいか、足をどう置けばいいか考えながらもタイミング

よくロープを引き上げていただき、一步ずつ登ることができた。2ピッチ目は最初の足がかりが難しく、一度ずり落ちてしまったが、何とか足の置き場を見つけて登った。途中、左側に行ってしまう戸惑ったが、右に戻るとクイックドロウを見つけることができた、2ピッチ目の方が難しかったように思う。

北尾根の途中で昼食をとった後、Y懸の頭まで登攀。Y懸の頭ではグループ①がすでに2か所の懸垂下降準備を終え、受講生が体験を始めていた。S水もビレイディバイスの取り付けを指導いただき、バックアップを取って懸垂下降に挑戦。体をロープに預けてできるだけ体を伸ばしてアドバイスに従って体験。その後、違うルートで再度体験した。時々、降りる方向を確認するようにということだったが見ることでバランスを崩して体が揺れてしまった。

他のパーティもいて待つ時間があり、グループ③とは一緒に活動できなかったのが残念だった。

下山後、駐車場で今日の感想や反省を行う。事後の指導として、クライミングは奥の深い頭を使う作業である。細かい作業の連続であり、どこでセルフを取るか、どこを持って足を置き、次につなげていくか考えてやっていかなければいけない。やみくもに行くと登れずパニックになってしまう。クライミングを経験することで、登山で岩稜帯を歩く時にも恐怖心なく進むことができたりバランスのとり方など学べる。今回、ヘルメットに直撃する落石があったが事前に落ちる音もなく上部パーティからのコールもない状況だった。落石には絶えず上部を注意するようにと教えていただいた。ロープの結び方や動作がもたついてしまう。“スピード=安全”と教えていただいたように、残り3回の経験でもう少しスムーズに、かつ安全に行動できるよう取り組んでいきたい。(S水：記)

<一口感想>

今回初めてゲレンデクライミングを体験して、クライミングのシステムの概要を理解することができた。自分はトップロープでの登攀だったので、三点確保に心がけ、意識を集中して登ることができた。クイックドロウを掛けながら登るリードクライミングや安全に注意しながらロープを出すビレイヤーの技術も習得していきたいと思った。シューズがワンサイズ大きめと店で言われていたが、右足が痛くなり待機時にかかとを外して足を休ませた。これに慣れるのも大変だと感じた。(T水)

高い所が苦手なので、クライミングの実技の前は少し緊張しました。ロープがあることで安心して登っていこうと思えたので、リードクライマーはすごいなあと思いました。上へ行くことが精一杯で、目の前にある岩壁しか見えていませんでした。そのため、足や手の置き場が分からなくて進めなくなることがありました。次からは少し離れて足や手の置き場を探せるように心がけたいです。懸垂下降の練習は体が振られてしまうことがありました。ペタペタ歩くように下りるとよいと教えていただきました。他にもできないことがばかりでしたが、講師、スタッフの皆さまのおかげで無事に1回目のクライミングの実技を終えることができました。ありがとうございました。

(N村)

ずっとドキドキ、ワクワクでした。低山のハイキングでは、季節の花を見つけて名前を調べたり景色の美しさを楽しんだりしてきましたが、今回そんな余裕がほとんどありませんでした。2ピッチめの(私にとって)難所を登れた後にチラッと見えた背景が美しいとは言え、自分が今つかまっている場所が思っていたよりはるかに高くてちよっとゾッとしました。また、初心者であっても、自らの命を守るために、すべきことや、覚えておくべきことがたくさんあることを痛感しました。まだ本当の怖さも分かっておらず未熟ですが、ハイキングでは味わえない醍醐味を少しだけ知ってしまいました。ご指導に感謝します。(S口)

ピッチを細かく刻んだので他のパーティからだいぶ遅れてしまいご迷惑をおかけしました。今回落石に当たったN森氏の横にいたのですが、自分に当たったのかと思うくらい、横にいても衝撃がありました。小さな石でしたが落石の怖さを改めて認識しました。(G阿弥)

今回スタッフという立場での参加でしたが、忘れかけている事が有ったり勘違いしている事も有りました。これはクライミングに関してはものすごくリスクが高い事で、勘違いしてましたでは済まされない事だと思います。そう言った意味では知識の掘り起こしができ大変有意義な時間を過ごさせていただきました。人の命を預かる事も有りますので今後も精進していきたいと思えます。(K口)

岩場ではまず自分を守るため、セルフビレイを取ることが大切です。クライミングでは足で登ること、岩から身体を離してどこが登りやすいのかよく見ることです。また、スピードは安全です。慣れですが手際よく動作を覚えていくことが安全につながります。クライミング体験を越える練習になりましたが、現場に行かなくてもロープ

の結び方、ロープのたたみ方、道具類（ガチャやテープ類の適切な装着）など身体で覚えてください。（T内）

登山は全般にそうですが、クライミングは特に、刻々と変化する状況に適切に対応する必要があります。そのためには、結論ではなく、意味や原理の理解が大切になってきます。常に「なぜそうなのか？」を考える姿勢は、登山の他の場面でも役立つと思います。これまでに先人が、犠牲も払いつつ安全のために創意工夫してきたシステムを理解すると、なるほどと感心させられます。受講生のみなさんには、講習の間に、そうした知的な楽しみも味わっていただければと思っています。（N森）

今回の初級登山教室、クライミングに何回か時間が割かれています。これを機にクライミングに興味を持って続けて行くのか、この講習会だけで終わってしまうのか、それは分かりませんが、山登りを続ける為の基本的な知識、技術等を身につけるには必要な事が沢山学べると思っています。登攀能力やロープワークは勿論、特に危機意識の持ち方や危険察知能力等々、山登りを行う際のとても重要な事も同時に学べると思っています。自身、決してクライミングは上手では無いですが、クライミングの講習会等で学んだ知識、技術は今も自分の山登りに生かされています。これから先、何年間も安全に楽しく山登りをする為にも、クライミングの講習内容を大事に学んで欲しいと思っています。（K嶋）



スイスアルプスのトレッキング（3）

N野T光

スイスアルプスには色々な動物たちが生息しています。最も良く知られている動物はマーモットとシュタインボック（野生のヤギ）です。

マーモットはスイスアルプスのトレッキング中に偶然見つけることが出来ました。動きが俊敏で見つけたと思ったらすぐに穴の中に隠れてしまいます。インターラーケンの自然動物園でもマーモットを見ることが出来ましたが、殆ど穴の中に隠れていてあまり良く観察が出来ませんでした。

マーモットは「ピーピー」と笛のような甲高い鳴き声を出す動物ですが、アルプスのトレッキング中には殆ど鳴き声を聞くことが出来ませんでした。

地面にマーモットが掘った穴をいくつか見つけることが出来たので、沢山生息していることが分かりました。



野生のマーモット

「アルプスの王」と呼ばれているシュタインボック（ドイツ語名、英語名はアイベックス）は大きな角が特徴の野生のヤギですが、偶然山にいる所に出くわすしかない貴重な動物です。今回はインターラーケンの自然動物園で観察する事が出来ました。さすがに頭には2本の大きな立派な角があり、「アルプスの王」に相応しい姿をしていました。マッターホルン近くの村ツェルマットでは至る所にスイスアルプスを象徴するシュタインボックのモニュメントがあり、マッターホルン博物館の前にも立派なシュタインボックのモニュメントが置かれていました。一度、ロープウェイに乗っている時に岩山を登っている野生のシュタインボックを見つけたことが出来ました。写真に撮ることが出来ず残念な思いをしました。



シュタインボック（野生のヤギ）



シュタインボックのモニュメント

スイスアルプスをトレッキングしていると、羊の放牧を良く目にします。盛んに牧草を食べていますが、時々トレッキングの山道を占拠している場面に遭遇します。そんな時は無理に通らずに、羊たちが通り過ぎるのを待つ余裕が欲しいものです。羊は 1 頭 1 頭それぞれ飼い主の記号が付いたタグを付けていますが、飼い主は殆ど見かけませんでした。

真っ黒な色の牛の放牧も良く見かけますが、スイスでは羊の放牧の方が多いようです。ツェルマットの駅前通りではおよそ 50 頭の「黒首ヤギ」を少年少女が引き連れて歩く「ヤギの行進」が見られ、運良くそれに遭遇して楽しく拝見する事が出来ました。



放牧中の羊たち



ネズミ返しを備えた家

スイスアルプスのトレッキングに出かける時に、建物の下にネズミ返しと呼ばれる円盤状の石の板を挟んだ倉庫を見かけます。これはヴァリス地方独特の黒いカラマツ材で造られた高床式の穀物倉庫です。ネズミが倉庫に上がれないように工夫された独特な形の倉庫で、ネズミによる害から食料を守って来ました。

2022年度第3回 運営委員会報告書

出席：N村、A本、N野（記録）、K林、K藤、I井、H浦、T中利、K嶋、H野
欠席：S内、F野

場所：和邇コミュニティーセンター第4会議室

日時：2022年5月10日（火）19時30分～21時00分

1. 春の公開(野点)山行について

雨天の為中止。最終的に43名の参加予定。

2. 清掃登山について（6/5開催予定）

1) コースについて

①権現山・小女郎ヶ池コース（定員20名）JR堅田駅8:00集合 現在申込 会員9名、一般7名 合計16名

②蓬莱山・打見山コース JR蓬莱駅9:00集合 現在申込 会員5名、一般5名 合計10名

2) 申込状況やや低調のため、会員及び友人知人に積極的に参加呼びかけを行う。

大津市広報に当会の清掃登山情報が掲載予定 ⇒ 5/15号に掲載されている。

3) 参加費

会員：無料、会員以外：保険代として100円

4) 江若バス・びわ湖バレイからの協力。夏原グラント助成金の補助。

5) 準備会の日時

6/4（土）10:00～事務所で実施。ゴミ袋、軍手、土のう袋等の装備品準備及び役割分担の決定。

3. 写真展について

1) 提出期限の5/31の延長に関しては、応募状況をみて検討する。

2) 運営委員会のメンバー以外のM藤さん、K藤さんらに写真募集方法の変更について実行委員長のH嶋氏よりメールで説明済。

4. 各担当より

・リーダー部：個人山行計画書への同行者の記載について、会員より山行計画書に会員以外の同行者に関してどの様に記載すればいいかの質問が5/4にあった。山行計画書に個人情報に掲載されるのを嫌がる方もいるとの事。尚、これらの方は個人的に保険加入していて、山行計画書が無くても保険適応されるとのこと。個人山行計画書（届）の取り扱いについて、2018年6月20日のリーダー部会で協議し、参加者の住所などの情報は緊急時に必要になる為、記載する事に決まった。その際にリーダー部で使用している山行計画書（届）のエクセルファイルを条件付きで配布する事に決まった。（H野）

山行計画書(同行者全員の必要事項も記載されているもの)は万一の事故等の場合に、連絡・対応・救助捜索等に必要なるものである。

決定事項：原則として個人山行であっても必ず必要事項の記載された山行計画書を提出する。

雪稜会の会員がリーダーの個人山行に於いて、参加する人の情報は全て山行計画

書に記載する。他会の会員がリーダーの個人山行に参加する場合、他会の書式の山行計画書に記載して提出する。個人情報に記載に関しては他会の方針に従う。

- 遭難対策・技術アップ：特になし
- 会計：会計としては特になし。例会山行に持参する救急袋に関して、袋内の医薬品や医療用具についての確認が必要。協議の結果、公開山行や清掃登山の準備会の時に内部を確認して、入れ替えや補充を運営委員が中心に行う。
- 自然保護：7/9～10に全国自然保護講座が滋賀で開催され、今回のテーマは福井と滋賀の県境の風力発電計画です。当会の参加者取りまとめはK藤氏が行う。
- 機関誌：会誌「ぶな」の山行報告の写真に関して、小さいサイズ2枚か大きいサイズ1枚の掲載にして欲しい。(I井)

協議の結果、山行報告の原稿の写真については、原稿に最小限に収まるように、又不必要にページが増えないように工夫して掲載する。

- 労山基金：既に案内のとおり、「労山山岳事故対策基金」の改訂がありました。救助捜索交付の増額や略称を「労山基金」に明確化など。
- HP：機関誌「ぶな」のHP用の編集作業について。

現在、機関誌「ぶな」のHP用の編集はぶな(Word版)の山行報告以外の原稿の会員名を全てイニシャル表記に変更。会員以外の個人名は公と思える名前はそのまま記載。原稿をPDF化してHPに公開する。(S内氏より連絡)

例会山行報告については、例会CLから送られてきたHP用原稿をそのままHPに公開している。(S内氏より連絡)

S内氏より一身上の理由(生活環境の変化)により、運営委員会事務局次長HP担当兼局長補佐の職務および例会への参加が難しくなったので、比良雪稜会を退会し、会友として次のHP担当が決まるまでHPの運営を継続するとの申し出あり。

以上の件、止むを得ない事情から全員了承となった。

決定事項：今後、機関誌「ぶな」のHP用の編集は、負担軽減も含み以前に行っていた編集内容(表紙写真、巻頭言、目次、例会山行案内、予定表)とする。例会山行報告、個人山行報告は別途HPに公開する。

5. 県連報告

第3回理事会は5/18(水)にZOOM兼用で開催予定。

F野理事よりの連絡事項：①2023年版労山カレンダーの写真を募集。一人5点以内で6/25(土)必着。②平和行進があり、6/16に岐阜より引き継ぎ、6/25(土)に京都にバトンタッチする。

6. その他

- 夏原グラント(2年目)の助成金贈呈式(4/16)にK藤氏が出席。2021年度夏原グラントの事業報告書・決算報告書をしがNPOセンターに提出。

しがNPOセンターより連絡があり、決算額の自己資金11,300円→0円として支出額71500円は全額助成金を充ててくださいとの事。助成金80,000円との差額8,500円を返金することになった。

決算額の自己資金相当額11,300円については会一般会計へ入れる。(N村高)

- 交通費は来月の6/1より35円/kmに変更。
- 会員動向 S内K好氏が5月に退会して会友へ。現会員数44名。

次回 2022年度第4回運営委員会は6月14日(火)19時30分からです。



2022年6月予定表

| | | | | | |
|------------|---|---------------------------------|------|---|-----------------------|
| 1 | 水 | | 19 | 日 | 例会 鈴鹿縦走③ 鈴鹿峠～安楽越 |
| 2 | 木 | | 20 | 月 | |
| 3 | 金 | | 21 | 火 | 第3回リーダー部会 「ぶな」原稿締切 |
| 4 | 土 | | 22 | 水 | |
| 5 | 日 | クリーンハイク 南比良2コース ①平～権現山 ②金毘羅道 | 23 | 木 | |
| 6 | 月 | | 24 | 金 | |
| 7 | 火 | | 25 | 土 | |
| 8 | 水 | | 26 | 日 | |
| 9 | 木 | | 27 | 月 | |
| 10 | 金 | | 28 | 火 | |
| 11 | 土 | | 29 | 水 | |
| 12 | 日 | 例会山行 荒島岳 | 30 | 木 | |
| 13 | 月 | | 編集後記 | | |
| 14 | 火 | 第4回運営委員会 | | | |
| 15 | 水 | | | | |
| 16 | 木 | | | | |
| 17 | 金 | | | | |
| 18 | 土 | | | | |
| 7月の予定 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 今月号と来月号の当番 | | | | | |
| | | | | | |



滋賀県勤労者山岳連盟

比良雪稜会

滋賀県大津市和邇今宿 712-1 西村方

TEL&FAX 077-594-0454

E-mail kazuyo-buna@r.river.sannet.ne.jp

HP <https://aquafoal39.sakura.ne.jp>